

「東京ヴェルディ」に関する研究～「移民化」という市場拡大の視点から～ A study of the Tokyo Verdy

1K06B032

指導教員 主査 宮内孝知先生

岩崎洋

副査 作野誠一先生

1 本研究の動機・目的・方法

本研究に取り組んだのは、東京ヴェルディに対して心理的コミットメントを抱いていることに起因する。かつてのヴェルディは人気、実力ともに好調であった。しかしながら昨今は J2 リーグに所属し、観客動員数も伸び悩んでいる。そのため本論文では現在のクラブに変化をもたらし、現状を打破するための方策として最も良いと考えている「東京ヴェルディ移民化計画」を主題とした。そしてそれがクラブ育成とスポーツ文化の振興・確立を記したクラブビジョンおよびクラブミッションを達成させるための手助けになればこの上ないことである。尚研究方法は文献研究である。

2 各章の要約

第1章では、東京ヴェルディ移民化計画の具体的内容とこの計画を支持する理由を論じた。東京ヴェルディ移民化計画とは東京都に在住するアジア系外国人の比率をレフェランスした、アジア系外国人選手から構成されるチームをつくることである。つまりヴェルディを移民のチームにすることである。そしてこの計画を支持する理由は、市場の拡大を見込めると考えたからである。というのも、東京都在住のアジア系外国人やアジア各国からの外国人旅行者などが、クラブに所属するアジア系外国人選手を応援するためにスタジアムに足を運ぶようになることで、入場料による収入を固められると考えたからである。

第2章では、この計画を東京ヴェルディが実

施していく意義や背景などを示すため、東京都と東京ヴェルディについて論じた。まず東京都にはアジア各国からの移住民や旅行者が多く出入りしているのである。彼らをターゲットにできるのは東京をホームタウンとしている東京ヴェルディの特権である。また外国人選手とスタッフを採用したパイオニアである東京ヴェルディが、率先してクラブ所属選手のアジア人化を行い、新たなクラブの形を実現させていくことも興味深い。

第3章では、東京ヴェルディ移民化計画を実現させていくにあたっての、具体例や課題について論じた。この計画による選手編成を1チーム30人として行くと、中国人が13名、韓国・朝鮮人が11名、フィリピン人が3名、合計27名となり3名分が余る。またこの計画の課題として、外国人枠と日本人選手が育たないということがある。前者に関してはJリーグには外国人枠があり、現状では東京ヴェルディ移民化計画を実現させることは不可能である。しかし外国人枠というのは流動的なもので、欧州では欧州内移籍が自由化された。それを考えるとアジア内移籍の自由化が促進されることもありえるのではないだろうか。また後者に関しては、尊重すべき意見である。そのため選手全員をアジア人にするのではなく日本人を数名加入させるべきであり、具体例の残り3人分を日本人とする。

終章は、本論文の結論であり、東京都をホームタウンとする東京ヴェルディが、本論で論じてきた東京ヴェルディ移民化計画を実現させる

ことができれば「市場の拡大」を見込むことができる、ということである。しかしながら、本当にこの計画が実現できるのかということ、そして本当に東京都在住アジア系外国人やアジアからの旅行者がファンとなるのかということは、実際にこの計画を実現させるために動き、実際に実現させて結果が出てみなければ未知な部分ではあるだろう。